

♪ 2016年度 **poco a poco** ♪

Nr. 10 2016年10月10日(月) 文責: プファイル・辰巳

### もうすぐ学校祭!

またまたご無沙汰してしまいました。暖かかった9月が終わったとたんに、朝夕めっきり冷え込むようになってきました。短い秋ですが、実りの秋、芸術の秋、そして秋の黄葉など、存分に楽しんでおきたいものです。



さて、日本人学校の学校祭が間近に迫ってきました。体育館の舞台や照明器具も設置され、ステージ練習も本格化してきました。音楽の時間も、小学部・中学部ともに、劇の挿入歌や音楽発表に向けて、練習を積み重ねています。本番では、舞台の上でのびのびと声をだして欲しいと願っています。

### 音楽こぼれ話 <あの町、この町、音楽家が住んだ町 ⑤ Halle (ハレ) >

ハレという町は、前回紹介しましたライプツィヒのすぐ近くの町です。中世以来、教会音楽がさかんであり、17世紀末からは大学町としても知られています。

この町で生まれた有名な作曲家としては、ゲオルグ・フリードリッヒ・ヘンデルの名前を挙げるができます。ハレルヤコーラスで有名な「メサイヤ(救世主)」や「水上の音楽」「王宮の花火の音楽」などが、ヘンデルの作品としては最も知られていると思います。

ヘンデルは1685年生まれ。音楽の父と呼ばれるJ.S.バッハと同じ年です。同じ年の作曲家として、二人はよく比較されるのですが、ライバルだったわけではなく、それぞれが我が道を歩んでおりました。

バッハが、ドイツを出ることなく生涯を終えたのに対し、ヘンデルは国際人でした。イタリアに住んだこともありましたが、後にイギリスに移住し、最終

的には英国民として帰化し、最後はウエストミンスター大寺院に埋葬されました。イギリスには、ヘンデルは生粋のイギリス人だと思い込んでいる方もおられるようですが、前述の通り、ヘンデルはドイツ生まれのドイツ人でした。

その生まれ故郷がハレという町だったのです。ハレには、ヘンデルハウスがあり、2009年(ヘンデルの没後250年記念)から「音楽あふれる博物館」として知られています。博物館では、もちろんヘンデルについての展示物のほかに、歴史的な楽器も数多く展示され、ヘンデルの作品を聞きながら見学することができます。また、年間に多くの室内楽コンサートが催されたりもします。

ヘンデルの町といわれることが多いハレの町ですが、実は、バッハの長男ヴィルヘルム・フリーデマン・バッハもこの町でオルガニストとして活躍していた時期がありました。「ハレのバッハ」というのは、父の大バッハのことではなく、この長男のフリーデマンのことを指して言うそうです。

ライプツィヒはザクセン州、ハレはザクセン・アンハルト州と、州こそ異なりますが、その間の距離は40km弱。ライプツィヒを訪ねられる際には、お時間があればハレの町にも回られてはいかがでしょうか。



### ちょっとだけ 演奏会情報

- 10月21日(金) フランクフルト カイザードーム(レーマー)にて  
20時から パイプオルガン コンサート  
ヘンデル、フランクのオルガン曲 ほか
- 10月23日(日) 聖カタリーネン教会(ハウプトヴァッハ)にて  
18時から パイプオルガン コンサート  
レーガーの作品 ほか
- 11月4日(金) フランクフルト カイザードームにて  
20時から 合唱コンサート  
バッハの作品 ほか
- 11月6日(日) 聖カタリーネン教会にて  
18時から パイプオルガン コンサート  
レーガー、シュトラウスの作品